

授業科目名・形態	介護実習Ⅲ	実習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	工藤久・柴田博・石岡和志・関口麗子	開講期	3年前期	単位数 3

【授業の主題】

介護総合演習Ⅳでの学習を踏まえて、再度個別ケアを行なうために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他の科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

介護実習Ⅲは、介護実習Ⅱで行った実習施設での継続実習となる。介護計画の作成、実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった介護福祉士としての一連の介護過程すべてを実践する場として、実習指導者の配置等、施設要件が満たされた施設での実習とする。また、巡回指導では、個々の利用者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報を収集し、自立支援の観点から実際の場面での介護過程の展開能力が育成されるよう、指導する。

【到達目標】

- 1) 実習の総仕上げとして、介護業務の本質と介護福祉士の果たすべき役割を総合的に学ぶ。
- 2) ICFに基づいた活動・参加の視点から支援の内容およびその必要について理解し、個別介護計画の作成・実施ができる。
- 3) 他職種とのチームアプローチの実際と必要性を理解する。

【授業計画・内容】

- 1 施設・在宅福祉の機能と介護福祉士の役割を理解する。
 - 1) 施設や組織の全体的な仕組みや業務の流れを理解する。
 - 2) 他職種の業務や相互の連携について学習する。
 - 3) 施設の在宅支援について実践を通じて学習する。
- 2 個別介護過程展開の実際を学ぶ。
 - 1) 「尊厳を支えるケア」「個別ケア」における介護実践の根拠を理解し、個別介護過程展開の実際を学ぶ。
- 3 生活支援技術を習得する。
 - 1) 再度、基礎的な部分を中心に介護業務を実践する。
 - 2) 医学的健康管理やリハビリテーションについて学習する。
 - 3) 利用者を取り巻く住生活設備や福祉機器に対する学習を深める。
 - 4) 利用者の行動障害や疾病に対応した援助について学習する。

【授業実施方法】

実習形式で行う。

【授業準備】

介護総合演習で計画した実習の事前準備を確実に実行すること。

【関連する主な科目】 介護の基本、介護総合演習、介護過程

【教科書等】

介護実習指導要領介護福祉士養成講座編集委員会編『第10巻 介護総合演習・介護実習第2版』中央法規出版

【参考文献】

泉順, 介護実習への挑戦, ミネルヴァ書房

【成績評価方法】

実習記録 50%、実習内容 50%とし総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

日々の実習目標を適切に設定し、介護の総仕上げの認識を念頭に置いて積極的に取り組んで下さい。